

# 巻頭の辞

令和初めての神戸市立病院紀要第58巻が発刊の運びとなりました。まずは、多忙を極めている現場で通常の診療業務に従事しつつ、総説・原著・医療研究報告の論文を投稿して頂いた、中央市民病院の細谷亮院長以下の先生方、あるいは活動報告をお寄せ頂いたスタッフの皆様、さらに編集委員の方々にお礼を申し上げたいと思います。

神戸市民病院機構は、市民の生命と健康を守るという基本理念のもと、平成21年度に中央市民病院・西市民病院の2病院体制で運営を開始し、29年度に西神戸医療センター・神戸アイセンター病院が加わり、現在は4病院体制となっています。

4病院は、それぞれを取り巻く環境や特徴は異なりますが、市民病院として地域住民の期待に応え、良質な医療の提供が求められています。

医療の進化の著しい臨床現場では、「なぜこの治療をするのか」「本当に正しいのか」という議論が日々要求され、ガイドラインに記された過去のエビデンスを受け身で使うという姿勢だけでは通用しない時代となってきました。

若手医師の皆さんは主治医として、コメディカルスタッフは医療チームのメンバーとして、診断や治療に苦慮した稀な疾患、従来との報告とは違う予期しなかった臨床経過を辿った症例、同一の治療を行なっても異なる反応を示した場合等、苦労した臨床場面から何らかのデータを見だし、学会で発表し、論文として投稿し、多くの医療現場で有効に活用してもらいたいという気持ちになられるのは自然だと思います。そして、指導医のリードで臨床研究を行なう際に、症例の経過を筋道を立ててまとめ、関連文献を調べ、結論を導き出す作業を行なう過程で、科学的考察や論理的思考が養われ、職員の皆さんが一段と成長されるのではないのでしょうか。

平成29年度より、院外で発表された研究報告を4病院のスタッフに披露して頂き、知識の共有や理解を図ることを目的に、4病院合同学術研究フォーラムが開催されています。市民病院紀要発刊と共に、神戸市民病院機構の臨床研究のレベルアップに大いに貢献して頂けると期待しております。

最後になりましたが、半世紀を超える神戸市民病院紀要の発刊を続けてこられた多職種スタッフの先輩諸兄の努力に敬意を表し、貴重な財産がこれからも継続されることを願って、巻頭の辞とさせていただきます。

神戸市立西神戸医療センター

院長 竹内 康人